

恵那の農畜産物のブランド展開

■夏秋トマト ハウス内環境モニタリングを活用した灰色かび病地域間差を解明

管内では、標高によってトマトの重要病害である灰色かび病の発生時期、程度に差があると考えられている。そこで、恵那農林事務所は、東美濃夏秋トマト生産協議会の協力を得て、5カ所の温湿度等のハウス内環境をモニタリングした。

環境と発病との関係を把握するため、現地調査とグループLINEによる聞き取りを併用した。結果、高標高地域ほど早期から長期間に渡り、発病しやすいことが確認された。



【灰色かび病調査の様子】

農業普及課では、「環境モニタリング装置」※とグループLINEを活用し、リアルタイムに生産者へ注意喚起できるシステムの構築を目指していく。

※「環境モニタリング装置」とは、ほ場やハウス内外の環境（温湿度等）を各種センサで測定し、その場になくとも、パソコンやスマートフォン等で、数値を確認できる機器。

(園芸産地支援第一係)